

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 岡崎市立新香山中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒444-2141
岡崎市桑原町字大沢20番地86

E-mail sinka@st.oklab.ed.jp

Website http://www.oklab.ed.jp/weblog/sinka/

児童生徒数 男子 191名 女子 191名 合計 382名
児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

ESD で向かう『21世紀型』生徒の育成

愛知県岡崎市立新香山中学校

「わたしは、エネルギーについて調べました。最も気になったのは、原子力発電です。原子力発電は、放射線が、放射性廃棄物のごみになっても出続けるし、将来その放射線が何も出ない状態に戻るには、なんと十万年もかかるって言われています。今、世の中の人々は原子力発電の安全性についてどうしようどうしようって言ってやっているけど、私は何の罪もない後世の人たちに原発のごみを預けるだけだと思えます。その人たちは何も悪くありません。私たちは、今の私たちのためだけに原子力発電を作って、考えている気がします。未来の人たちは原発がついていたことに関して何の得があるのでしょうか」
＜7月 環境学習「エコで乗り切れるか今年の夏」での生徒Aの発言より＞

私たちの研究の原点は、「未来志向の生徒づくり」です。環境学習を基軸としたESDの研究も6年目を迎えました。本年度は、新香山環境学習プログラムの実践検証、ESDの概念や手立てを各教科の授業に取り入れ実践することはもとより、子供たちの生活そのものにアプローチし、未来志向の学校教育モデルの在り方を構想し、体系化していく研究に取り組みました。そのキーワードが「自己肯定感」であり、「21世紀型スキル」です。

環境学習における「ESDの手立て」について

本校では、ESDは、概念であるが、方法でもあると捉え、環境学習を基軸としてESDの授業研究を行ってきました。その中で、探究学習におけるESDの手立ての検証を進めてきました。指導案の中に下図のような視点表を設け、意図的に手立てを構想しています。これまでの研究で、かわり合いの中で生徒の思考にゆさぶりをかける教師の出がESDを意図したものならば、生徒の思考や話し合いの方向も未来志向であったり、世代を乗り越えた倫理観に迫ることができると考えてきました。冒頭の「エコで乗り切れるか今年の夏」の授業では、「電力使用5%削減目標」に対して可能か不可能かで話し合いが盛り上がる中、教師は「原子力発電所の再稼働によって削減目標廃止のニュース」を提示したところ、生徒は一斉に「エコ活動の意義と必要性」を発言するようになりました。この授業のように授業者が関わり合いの場面で生徒たちの思考や思いに積極的に仕掛ける(ゆさぶる)ことの大切さがあらためて確認できました。

「ESD」を生活の場に取り入れる取組

研究を通して、環境学習そしてESDのキーワードは「探究」であることが実感できます。さらに、学びが深まるにつれて「世代を超えた倫理観」を学ぶ道徳的な授業の必要性が高まってきました。また、私たちは、この実践を通して、学びのキーワードを「つながり」と「つづける」としました。未来志向の環境学習での視点は、まだ見ぬ世代だが、生徒の生活と行動は「すぐ先の未来」です。生徒の日頃の行動こそESDの検証場面であると考えています。例えば、トイレのスリッパをそろえることも一番近い未来の人を意識した行動として、校内のトイレのスリッパをそろえ、「フラッグ」



をあげようという取組も実施しています。生徒たちは、小学校で岡崎市環境教育委員会が作成した環境プログラムに取り組み、学びを深めています。今のことしか考えられない自己中心的な考え方から

【コミュニケーションを行う力】

- ・窓から外を見た時「今日そろっているね」と友達と話すことがあるので前より気にかけてようになった。(3年女子)
- ・友達のスリッパをそろえた時に「ありがとう」といってくれて、そろえてよかったと思ったことがある。(1年女子)

【他者と協力する態度】

- ・真価フラッグが上げられると全校が1つになったと思えるのでとてもよいと思う。(3年男子)
- ・友達と一緒に整頓できたことが良かった。(3年男子)

【つながりを尊重する態度】

- ・とてもよいことだと思います。そういう風に習慣づけていくことは大切ですし、大人になって社会に出てからも必要だと思うので。(2年女子)
- ・下駄箱でそろえられるなら、トイレスリッパもそろえられると思う。(1年男子)

【進んで参加する態度】

- ・脱ぐときに見てそろえながら脱いでいるのを見て「いいな」って思う。(3年女子)
- ・自分の使ったスリッパをそろえるついでに周りのもそろえている人を見るのでみんながそうならばもっとよくなると思った。(3年女子)

未来志向の生き方へ考え方が変わると、きっと新しい価値観が見い出せるであろうと実践した私たちの歩みです。

◆1年生の実践<外来生物をどうすべきか、希少生物を保護すべきか考えよう>

導入は、身近なタンポポの観察から始めました。中学校に入学してきて、理科の最初の単元「植物の生活と種類」で興味をもったタンポポ。生徒たちが観察していくと、すぐにセイヨウタンポポ（外来種）とカントウタンポポ（在来種）の存在に気づきました。2種類のタンポポの相違点を調べ、それぞれのタンポポの生えているところを調査する学習を行いました。そこでの学びを通して、校内での2種類のタンポポの様子は学区ではどうなのかと疑問をもち、地域に広げて考えをもつようになりました。直後に、学年で「第1回新香山っ子学区調査～タンポポ編～」として学区のタンポポを中心とした外来種と在来種の調査を行い、バイオリージョンマップにまとめ、報告会を行いました。報告会の中では、外来種と在来種の数が話題に上がり、生徒Bの「このままだと生き物の数が変わるだろう」という意見をきっかけに討論の場を設定しました。実際に学区のササユリなどの絶滅危惧種について調べ学習をしたこと、友達の意見を聞いて「その場」で書いた考えを「その場」で教師が賞賛することで、自分の意見を自信をもって発表したり、友達の意見に賛成や反対を言える場面が見られました。生徒Bがぼつりつぶやいた「生き物の数が変わっていると思います」から討論形式に進めたことで、議論が深まり、生徒Bは感想を以下のように書いていました。



タンポポ調査する生徒

生徒の感想に「もっと外来種や在来種のことを調べたい」がありました。これを満足させるために、①体験を重視し、自分の考えが言えること。②学区や少年自然の家に生息するササユリを活用すること。③外来種について詳しく学べる場を探すこと。3点に留意して、単元構想を考え直しました。

◆2年生の実践<各家庭の電力使用量を調べよう>

今回は、電力使用量のみを調査するというので、毎日、各家庭の電気メーターの数値を記入するという方法をとりました。この方法であれば、1か月の明細書も不必要であるし、その日の電力使用量がその場で分かるという利点があります。そこで、クラス全家庭でエコチャレンジ前の5日間と、エコチャレンジ後の5日間の電力使用量のデータを取り、比較しました。また、岡崎市のエコチャレンジノートを本校の職員全員が行い、そのデータも生徒たちが分析を行いました。

クラスのエコチャレンジの結果 -2.6%

このままではいけないと思います。このクラスでも2.6%しか節電できていないので、日本中の人が取り組んだとしてもあまり変わらないと思います。
(エコチャレンジ後の生徒Cの感想)

話し合いの前時までに3グループに分かれて調査したことを発表し合い、まず情報を共有しました。その後、節電が叫ばれている夏を乗り切ることができるのか、乗り切る方法は何かということ話し合うようにしました。

「このままいけば、絶滅危惧種の動物は、減少してしまうので、一人一人が動物を守れるような行動をすれば、絶滅危惧種の動物を守れると思います。ぼくは、動物の部位を使っているものを買わないようにします」
<生徒Bの授業後の感想より>

昼間は、エアコンの消費電力が一番多いことが分かったので節電したい。また、エコグッズは年々高性能になっているので、これを使えばこの夏は大丈夫だと思う。
<生徒Dの感想>

◆ 3年生の実践<「新エネルギーについて調査しよう」>



自分たちの考えを発表する生徒たち

原子力発電は、二酸化炭素を排出しない発電として近年まで急速に増加しており、日本の総発電量に占める割合は大きくなっていました。しかし、東日本大震災以降は、放射能の危険性をもつとして次々と運転を休止していきました。そこで、3年生では夏休みに入る直前に「原発なしで迎える今年の夏は乗り切れるのか？」で討論しました。生徒の意見は半々に分かれ、白熱した討論が行われました。

脱原発についてどう考えるかという授業を行った後には、今は火力発電に頼っているが、低炭素社会を実現しなくてはならないと考える生徒が大多数を占めました。そこで、原子力発電や新エネルギーと言われている太陽光発電、風力発電などを、メリット、デメリットに分けて調べました。そして、原子力発電については、どのような危険があるのか、再稼働に向けた安全対策は本当に大丈夫かという視点で、詳しく調べました。また、太陽光発電については、新興住宅地に建つ家の屋根にはソーラーパネルが多く設置されていることから、聞き取り調査を行った生徒もいました。

緑陽台(新興住宅地)へ調査に行くと、いろいろなことを知ることができてよかったです。太陽光発電は設置する費用は高いけど、10年ぐらいで設置費用分が返ってくるし、CO₂も出ないし、とてもいい発電方法だと思いました。私の家にも付けたいです。でも、取り付け費用が高いらしいので心配です。

<生徒Eの感想>

<授業記録>

- C3: えっと私も今年の夏は乗り切れないと思います。理由は、だいぶ昔から節電だとか言っているけど全然変化がないし、昔よりも地球温暖化が進んでいるような気がするので、今年もみんながいきなり節電とかしないと思うので難しいと思います。
- C4: なんかも昨日の発表で聞いたように、気温は平年並みとかいっていて、私は去年、クーラーなしで死んじゃうんじゃないかというくらい限界でクーラーつけてしまったので、たぶん同じような人がたくさんいてみんなクーラーつけちゃうと、なんか電力不足になっちゃうんじゃないかなと思って、乗り切れないかなと思います。
- T4: じゃあポジティブ派の人はどう。
- C5: わたしは大丈夫派で、消費電力が一番多いのが、エアコンと照明機器で、それぞれ節電方法があるから、それをみんながやってくれば大丈夫だと思います。
- C6: ぼくは、乗り切れると思います。なぜなら、家庭内でできる節電方法がいろいろあるので、それを一人一人がやってくれば、大丈夫です。

おわりに

本年度は、以上の実践を基に福島県郡山市立日和田中学校と3つの交流を実践しました。

① 学習交流会

夏休みに日和田中学校の先生1名と2年生2名を招き、本校の総合的な学習の取り組みを紹介しました。また、日和田中の生徒からは、東日本大震災による生活の変化の様子や原発は必要か？で討論することができました。自分たちの考えと違って原発賛成の立場の日和田中の生徒たちの発言に引き込まれていきました。

② 生徒会交流

生徒会の立案から11月に行う文化祭に福島県の物産展を開きました。生徒はもちろん、保護者や地域の方も購入していただき、利益をすべて義援金として送ることができました。

③ 部活動交流

冬休みには本校のバレーボール部女子が福島まで行き郡山市の中学校バレーボール部とも交流することができました。環境学習では「自然を意識する感受性」と「世代を乗り越えた倫理観」が学びのキーワードであると検証してきましたが、未来社会の創造に向けて、教科横断的に、また系統的に学習していく中で「批判的思考力」「自己肯定感」「コラボレーション能力」の必要性が教師間から上がってきました。

確かな判断や意思決定、さらには行動化を導くには、自分自身を見つめる、振り返る活動を繰り返す必要があることが焦点化されてきました。私たちはこれを「自己肯定感」であ

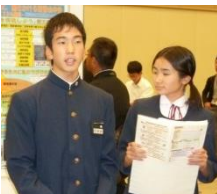


るとして今後、そのつながりについて実践検証していきたいと思います。さらに、三つの大きなステージと十の目指す力の獲得・定着に向け、本校教育実践の具体的な取組みを進めていきたいと思います。

21世紀型スキル<3つの大きなステージと10の目指す力>



あいち・なごや子ども会議参加



ユネスコ世界会議
岡山県大会参加



愛知県ユネスコスクール交流会参加



世界気候変動セミナー
参加(フランス COP21)

コミュニケーション能力

「私には言いたいことがある」

特色ある学校づくり

MDT (ミニディスカッションタイム)
GWT (グループワークトレーニング)
トイレフラッグ
ササユリ保護活動
学区清掃
生徒会活動

想像力と

イノベーション

「異なる意見の統合で
答えが見つかる」

コラボレーション

能力

「私のアイデアは
話し合っ
てさらによくなる」

21世紀型スキル(10の力)

環境学習プログラムを中心とする未来志向の学習

情報リテラシー

「つながっている
あなたと世界と」

自然の恵みを大切に思う
(感受性)

世代を越えた倫理観
(世代間倫理)

総合的な学習の時間・道徳・教科学習

シティズンシップ
(市民性)

「地球人として
行動する」

ICTリテラシー

「情報機器を使いこなす。
そして創造する」

思考する力
活用する力
をみがく

ESD

職場体験学習・社会見学
ユネスコスクール交流活動

未来を生きる
人づくり

批判的思考
課題解決

「本質を追究する」

人生
キャリア設計
力

「生き方キーワード
をみつける」

メタ認知力
と
自己肯定感

「私には
よいところがある」

個人的
社会的責任

「私には未来を創る
責任がある」

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）